

日本酒フェア

日本酒でみんな笑顔に！年に一度の日本酒の祭典、今年も盛況



「第7回 全国日本酒フェア」の模様



国
酒



全国各地の銘酒と、全国新酒鑑評会の入賞酒が一堂に。年に一度の日本酒の祭典として絶大な人気を誇る「日本酒フェア 2013」が、6月14日、東京豊島区の池袋サンシャインシティで開催され、今回も開催を待ち詫びた多くの来場者で賑わいました。日本酒業界が総力で取り組んだビッグイベントの会場から、笑顔いっぱいの日をレポート。



日
本
酒



「公開きき酒会」の模様



世界に羽ばたく「國酒・日本酒」。試飲と展示で日本酒最前線の全貌を紹介



日本酒マスコット・おちょこくん(右端)も加わってオープニング・セレモニーでのテープカット。左から、中央会の土井清酒技術委員長、酒類総合研究所の木崎理事長、中央会の篠原会長、佐浦需要開発委員長

来場者を圧倒した「1度で2度おいしい」豪華イベント

「日本酒フェア」は、ひと粒で2度おいしい！日本酒ファン垂涎の豪華イベント。7回目の開催となる今回も、45 都道府県の酒造組合が自慢の地酒をサービスする「全国日本酒フェア」(日本酒造組合中央会主催。会場はサンシャインシティのワールドインポートマート 4F) & 平成 24BY 全国新酒鑑評会の入賞酒を網羅した「公開きき酒会」(日本酒造組合中央会・独立行政法人酒類総合研究所共催。会場は同文化会館 4F 展示ホール)というダブル企画で、日本酒最前線の全貌を紹介。政府の「國酒プロジェクト」を追い風に世界に羽ばたこうとする日本酒の可能性、そして東日本大震災からの復興へ向けて安心・安全な酒造りにまい進する日本酒業界の姿を、試飲と各種展示によりアピールして、およそ 5,500 人の来場者を魅了しました。

▼ 午前 10 時 40 分から行われたオープニング・セレモニーでは、中央会の篠原会長と酒類総研の木崎理事長が、それぞれ主催者挨拶を行いました。



篠原会長

「東日本大震災の被害は、全国の支援でほぼすべての蔵が出荷できるまでに回復したが、原発事故による風評被害は未だ払拭できていない。日本酒は安全・安心なお酒です。今日は全国各地の日本酒を飲み比べて、気候風土による味の違いを確認してください」



木崎理事長

「今年の全国新酒鑑評会(第 101 回)の出品酒は、吟醸香とソフトな味わいが調和した素晴らしい酒ばかりでした。各蔵の技術の粋を尽くした大吟醸酒を存分に味わって、ぜひ日本酒への理解を深めてほしい」



日本酒ファン殺到(会場入口前)



メディアの注目も例年どおり

SAKE FAIR 2013 第7回「全国日本酒フェア」の会場から

それぞれアイデア凝らして、45都道府県の自慢の日本酒を試飲・販売

「第7回全国日本酒フェア」(11時～20時)には、鹿児島、沖縄を除く全国45都道府県酒造組合(連合会)を中心に、日本酒造協同組合連合会、日本酒造青年協議会など関係8団体、さらに味噌、漬物業界など協賛3団体が出展。それぞれブースを構えて、アイデアを凝らしたオモテナシで来場者を楽しませました。

中でも、自慢の日本酒の試飲&販売を繰り広げた酒造組合のブースでは、特産物のおつまみサービスや景品の当るお楽しみゲーム、さらには人気のゆるキャラを登場させるなどして、自県の酒を猛プッシュ。来場者からは「蔵元さんの説明も親切で親しみが湧きますね」との声もあり、出展した県組合関係者も「日本酒もお客さまも、みんな一緒に元気にしたいと思って頑張りました」と、来場者の好反応に会心の笑顔を見せていました。(来場者の感想は6頁、各ブースの出展風景は7～9頁に掲載)



おちよこんとくまモンの激レア2ショット



やった!景品ゲット



会場は熱気いっぱい。外国人来場者の姿も



滋賀県のにんじゃえもん(左)と秋田県のスギッチも登場



イートイン・コーナーでは軽食をサービス。飲み疲れた人も、ここでひと休み



特産物のおつまみサービス



歴代総代理の「國酒」色紙コーナー



日本酒は安全です(安心PRコーナー)



クールスタイル、ひと振り酒等をテーマに「日本酒セミナー」。新企画「ベテラン・若手杜氏対談」も

「全国日本酒フェア」では、今回も会場の一面にセミナーコーナーを設置して、日本酒に関する様々な情報発信に取り組みました。

恒例「日本酒セミナー」として、トータル飲料コンサルタントの友田晶子さんと中央会の濱田由紀雄理事、スポーツ栄養士で日本酒スタイリストのこばたてるみさんの3人が、それぞれ30分間のセミナーを行ったほか(各2回)、新たにベテラン杜氏と若手女性杜氏による対談企画も登場。

ベテラン男性と若手女性という立場の違う2組4人の杜氏が、「酒造りの今昔」をテーマに興味深いやり取りを繰り返して、参加者の好評を博しました。



▶ 友田さんの講演「夏の日本酒クールスタイル」は、夏の暑さをクールスタイルで涼しく乗りきろうという新時代の日本酒ライフの提案。オリジナルカクテルの「日本酒カシス割り」「サムライロック」を参加者自ら作って体験する時間もあった。「クールスタイルはちょっとカッコよく、ちょっとオシャレなお酒。透明度の高い氷をふんだんに使えば、味も音色もグッと涼しくなります」という友田さんのアドバイスに、参加者からは「音色まで涼しいなんて、日本人ならではのお酒ですね」と感嘆の声が。



友田さん

涼味満点！
カシス割り



わあ、きれい！



濱田理事

◀ 濱田理事は「日本酒の四季」と題して、「山紫水明の日本の風土から生まれた國酒・日本酒」の魅力を、麹菌の力、酒造技術と製造方法、そして四季の酒肴との組み合わせまで、幅広く解説しました。



こばたさん

◀ こばたさんは「日本酒は最高の調味料！ひと振り酒」と題して、たったひと振りで料理をぐっと引き立てる日本酒の不思議な力を、健康効果も含めて解説。「いつも料理には日本酒を使っていますが、カップラーメンにひと振り酒とはびっくりしました」(参加者)



菅原さん



柏木さん



◀ 注目の新企画、ベテラン杜氏と若手女性杜氏との対談では、まず菅原敬夫さん(石越醸造(株)顧問)と柏木純子さん(花春酒造(株)杜氏)が、女性としてまた主婦として酒造りに携わる難しさや喜び、男性から見た女性杜氏への期待などについてトーク。



平野さん



今村さん



◀ 次に、平野保夫さん(原酒造(株)製造部長)と今村友香さん(若波酒造(株)杜氏)が、昔と今の酒造りの違いなどについて話を交わしたほか、平野さんが自慢の喉で昔の数番うたを披露。参加者は、各蔵の酒を試飲しながら、珍しい作業歌に耳を傾けていました。

SAKEFAIR 平成24BY全国新酒鑑評会 2013「公開さき酒会」の会場から



世界も注目



101回目の鑑評会入賞酒423点が一堂に

1911年(明治44年)にスタートして以来、日本酒の酒質と技術の向上に大きく貢献してきた全国新酒鑑評会。通算101回目となる平成24BYの鑑評会では、総出品数864点のうち426点が入賞(うち233点が金賞受賞)しており、「昨年の猛暑で米質が硬くなったにも関わらず、杜氏および製造担当者の努力で、多様な味わいの良質な酒が醸造された」(酒類総合研究所)と評価されています。その入賞酒のほぼすべて(423点)を一挙公開したのが「24BY 全国新酒鑑評会公開さき酒会」(第1部=10時~13時、第2部=16時~20時の2部入替制)。

鑑評会入賞酒のすべてを試飲できる都内唯一のチャンスだけに、会場には折り紙付きの醍醐味を体験しようと開場前から日本酒ファンが殺到。地域別に分けられた8つのブロックを巡りながら、最高レベルの技を真剣な表情で確かめていました。



開場前から、この長蛇の列



酒類総合研究所特製の「貴醸酒」の新酒と古酒の飲み比べが人気



全国新酒鑑評会の紹介コーナーや、酒造りコーナーなど、様々な展示企画も注目を集めました。





来場者のみなさんに聞きました



・どちらかというと、私のお目当ては「全国日本酒フェア」のほうです。「公開きき酒会」は素人の私にはちょっとヘビーかな。「日本酒フェア」は、おつまみもいっぱいあるし、蔵元さんも親切で、いろいろ話をしながら説明もしてもらえるので親しみがわきますね。（「全国日本酒フェア」で。一般、女性）

・日本に来て 5 年になりますが、私の定番はラーメンに日本酒。どちらも日本が生んだ素晴らしい食文化です。ウイスキーよりもビールよりも日本酒が好きで、家でも日本酒しか飲みません。ちょっと変わったアメリカ人かもね。（「全国日本酒フェア」で。アメリカ人、男性）。

・今年の新酒も素晴らしい。特に福島県と新潟県のお酒が気に入りました。このイベントに来たのは3回目。点数が多いので全部は回りきれませんが、居酒屋をやっているので、とても参考になります。欲を言えば、休憩用の椅子をもっと増やしてほしいですね。（「公開きき酒会」で。料飲店、女性）

・島根県出身の友人と一緒に来ました。私は福岡県出身。久しぶりに故郷の味と出会えてうれしかった。できれば3日間はやってほしいですね。一日だと仕事の都合で来られないこともありますから。（「全国日本酒フェア」の会場で。一般、女性）

 **「一日で全国を旅行するような気分」「蔵元さんが親切で親しみがわく」「3日間はやって欲しい！」などなど。**
～ 感想や要望いろいろ 

・物産展が大好きなので、このイベントも大好き。毎年、会社の女の子たちを誘って皆で来ています。もちろん日本酒もいいけど、1 日で全国を旅行するような気分になれるのが、このイベントの魅力ですね。（「全国日本酒フェア」の会場で。一般、男性）。

・今回も十分に楽しませていただきました。ただ、以前はパー風とか居酒屋風とか、各県のブースがもうちょっと多彩だったような気がするんだけど。まあ、お祭りですから、できるだけパーっと華やかにやってもらって、楽しさが倍増すると思います。（「全国日本酒フェア」で。一般、男性）。

・日本酒の海外進出大賛成。もっともっと外に出るべきだと思います。國酒という言葉はちょっと硬いイメージですが、大吟醸酒なんかとっても飲みやすいし、外国に出してもぜったい人気が出ると思う。国宝です。（日青協のブースで。一般、女性）。



第7回「全国日本酒フェア」

各県酒造組合・関連団体・協賛団体の出展風景

★ 各都道府県酒造組合(連合会)のブースから



北海道



青森県



岩手県



秋田県



山形県



宮城県



福島県



群馬県



茨城県



栃木県



埼玉県



千葉県



東京都



神奈川県



山梨県



長野県



新潟県



福井県



石川県



富山県



静岡県



愛知県



三重県



岐阜県



滋賀県



京都府



大阪府



奈良県



和歌山県



兵庫県



岡山県



広島県



鳥取県



島根県



山口県



愛媛県



香川県



徳島県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県



大分県



熊本県



宮崎県

★ 関連団体のブースから



日本酒造青年協議会

日本酒造協同組合連合会

スローフードジャパン 燗酒コンテスト

ワイングラスでおいしい日本酒アワード



日本酒ライスパワーネットワーク

長期熟成酒研究会

日本酒がうまい！推進委員会

東京農大花酵母研究会

★ 協賛団体のブースから



全日本漬物協同組合連合会

全国珍味商工業協同組合連合会

みそ健康づくり委員会